

北原照久さん

[ブリキのおもちゃ博物館館長]



おもちゃコレクターとして世界的にも有名な北原さんは、執筆・講演活動、「よこはま教師塾」の塾長など、様々な活動を行っている。それらはすべて、自身の経験に基づくメッセージを伝えるため。北原さんが先生に、そして世の中に伝えたいことをうかがった。

自分を信じてくれた親と先生

現在の私は無類の勉強好き。たくさん本も読むし、自分のコレクションしているものについても徹底的に勉強しています。しかし、もともと勉強が好きだったわけではありません。中学校を退学になったぐらいですから、むしろ勉強は大の苦手。友達もいない子どもでした。そんな私が変わったきっかけ、それは信じてくれる大人の存在でした。母親は中学を退学になった私に、「人生はまだやり直せる」、「お前は喧嘩ばかりしているけど、タバコを吸わない。いいところがあるじゃないか」と言ってくれました。当時の私にはすごくそれらの言葉が響きました。その後、高校に入学し、そこで沢辺先生という先生に出会います。沢辺先生は、いわゆる感激型で、すごく誉め上手。たまたまテストで60点をとったとき、「やればできるじゃないか」と一緒になって喜んでくれました。母親と沢辺先生。たくさんの人に出会いましたが、この二人が人生の恩師と呼べる存在ですね。

勉強すれば夢が持てる

なかでも、沢辺先生との出会いは、私にとって大きなものでした。「お前はやればできる」という先生の一言がきっかけで、どんどん勉強が好きになり、高校を総代で卒業しました。勉強をするようになっての一番の大き

な変化は、夢を持つようになったことです。夢は誰でも持てると思われていますが、私は違うと思います。勉強して世の中のことを知り、自分の価値を知り、はじめて具体的な夢を持てるようになるんだと思います。勉強をしなれば、夢を持つとうにも、何も見えてこないのです。事実、高校で勉強が好きになるまでの私には、夢や希望がありませんでした。それが勉強を通じて、自分の可能性や世の中の広さを知り、「自分はなんでもできるんだ」という自信を持つことで、はじめて夢を思い描けたのです。そういった経験から、勉強とは夢を持つため、前へ進むためにあるものだと私は考えています。

強く信じることの重要性

ただし、当時の私の夢は、なりたい職業や行きたい場所などではありません。「加山雄三さんに会いたい」「サンダーバードに乗りたい」「海辺の家が欲しい」といった具合でした。もちろん、周囲からはそんなことできるはずがないと笑われていました。しかし、勉強をしてすっかり自分に自信を持った私は、自分ならできると信じていました。そして、実際これらの夢は、数十年も後、50代になってからすべて叶うことになりました。それほど強く信じることができたのは、前述の母親や沢辺先生の言葉があったからでしょう。そう、子どもたちに勇気や希望を与えられる大人は、両親

以外では先生なのです。先生というのはそれほど大きな存在なのです。

子どもたちへ伝えて欲しいこと

私が教員志望者のための学校である「よこはま教師塾」で塾長をしているのも、そんな先生や教育の大切さを、身をもって知っているからです。先生から子どもたちへ、伝えて欲しいことがあるからです。それはたくさんありますが、ここでひとつだけ選ぶとすれば、「優しさ、思いやり、人の痛みを知る」ということでしょうか。これは司馬遼太郎さんの言葉ですが、人生においてもっとも大切なことだと思います。なぜなら、これらはすべて自分に返ってくるものだからです。これらを大切にしていれば、素敵な出会いもあるだろうし、感動することもできます。そして、出会いや感動が前へと進む活力を与えてくれます。ぜひ、先生から子どもたちへ、教えてあげてください。



▲1年中クリスマスのお店「Christmas Toys」にて。マスコット犬のTJ(ティージェー)くんと。

北原照久(きはらはるひろ) | プロフィール

1948年東京都生まれ。大学時代に訪れたヨーロッパでものを大切にする文化に触れ、収集活動を開始。1986年、横浜に「ブリキのおもちゃ博物館」を開館。現在、テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」に鑑定士として出演中。また、数々の講演や執筆活動でも幅広く活躍しており、その内容やメッセージも多岐に渡る。

子どもたちを導ける大人は、
両親のほかには
先生しかいないんです。